

社会科教育講座 澁谷 友和 准教授

未来洞察ワークショップを組み込んだ 「共創する」初等社会科授業の開発



キーワード 初等社会科教育 / 未来洞察 / 共創 / ワークショップ

どのような研究をなぜ行っているか

子どもたちが自分たちの未来に「明るい希望」を持ち、その未来はどのような未来なのかを創造的に描く「未来デザイン力」を育成するために、「共創」や、ありたい未来を描く「未来洞察」という近年の国際的な教育の動向に着目し、それらを授業に組み込んだ「共創する社会科」の授業はどのような構成にすればよいのかという研究をしています。

令和5年度全国学力・学習状況調査の際に行われた質問紙の項目の一つである「将来の夢や目標持っていますか」では、「持っている」と答えた子どもたちが6割にどどまっています。これは10年前の調査結果から10%も減少しています。コロナや戦争、物価高など予測困難な時代に生きていることを痛感せざるを得ない出来事の重なりもあり、子どもたちが自分たちの未来に希望を持たずにいる状況が研究の背景にあります。

「共創する社会科」の授業を構成するにあたり、現在は2つの視点で研究を進めています。

1つ目は、社会科の中で「共創」という場面を生み出すために、川嶋・中野（2018）で紹介されている「えんたくん」という円卓の段ボールを活用し、地域の方々との「ワークショップ」を組み込んだ授業方法の検証を行っています。

2つ目は、イギリスのヒックスが示す未来思考型の授業構成論や国内の未来洞察研究の動向を手がかりに、未来洞察を組み込んだ初等社会科の授業の展開について、実践授業をふまえ検証を進めています。

これまでの社会科では「予測できる未来」に対してどうするかという授業展開でしたが、未来洞察の手法を用いることで、創造的な未来を描く子どもたちを育成できると考えています。

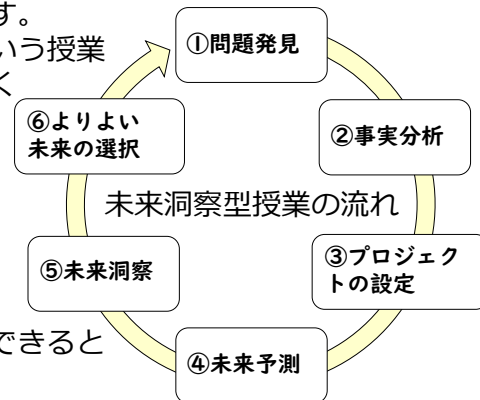


共創ワークショップの様子

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

「ありたい未来」を創造する未来洞察の手法、地域の方々との「ワークショップ」を組み込んだ「共創する」社会科の授業を展開することで、子どもたちの地域への関心を高めることができ、社会科の目標である「地域社会の一員としての態度」を育成することができると考えています。

また、地域の大人と子どもが、これまで対等に話をする機会があまりない地域が多いかと思いますが、実践対象地域では、双方が「よく話をしようと思う」という意識へ変化しています。少子高齢社会における新たなコミュニティ形成に貢献できる授業だと考えています。



これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

【論文】澁谷友和・杉山雄大（2023）インパクトダイナミクス手法に着目した未来洞察型授業の開発－第6学年社会科単元「未来の防災アプリの機能を考える」を例に－、社会系教科教育学研究 第35号、pp.1-10. 等

【社会貢献活動】・国際地理オリンピック日本委員会実行委員会委員 ・社会系教科教育学会理事
・東大阪市立小学校研修講師 等